

故吉本清信先生 追悼射会

令和5年12月10日 橿原公苑弓道場に於いて

◆◆ 黙祷 奈良県弓道連盟会長 西中正先生の先導により

◆◆ 奈良県連 会長 挨拶 西中正先生

まだつい最近まで、ここで吉本先生が弓を引いておられたような気がします。ご逝去されてから1年がたちますが、たくさんの方に本日お越しいただき追悼射会を行うことができず、本当に感謝いたします。ありがとうございます。

吉本先生は奈良県弓道連盟の発展に力を注いただけでなく、全日本弓道連盟の中心となって活躍された先生です。その時に一緒に活躍していただいた範士の先生方も今日こうしてお越しくださいました。近畿からは兵庫県の林文夫先生、和歌山県からは佐竹万里子先生、滋賀県からは中野秀也先生。遠く青森県から川村光良先生、広島

県から宮脇保博先生がお越しくださいました。ありがとうございます。この1年連盟の中を見ていると、特に講習会等で講師を担当する先生方が、吉本先生はこういう努力をしてこられた、こういう工夫をしてこられた、と吉本先生の名前を残しながら講習会を進めてくれています。吉本先生はまだこの道場のどこかにおられて、我々と一緒に弓を引いているのではないかと思います。今日一日ご指導して頂いたことを思い出しながら、心を込めて行射していただけたら幸いです。



◆◆ 奈良県連 顧問 須田三郎先生

先生は昭和59年に岩手県の山間部の沢内村から奈良県の山添村に診療所長としてふるさと奈良に戻ってこられました。ご逝去の昨年まで、38年間、陰に陽に大変お世話になりました。先生が戻ってこられた3ヶ月後にわかくさ国体があり、赴任早々にも拘わらず、先生には競技役員をお願いしました。国体終了のひと月後、伊藤登会長がご逝去されて、後任に昆布富明先生が就任され、昆布先生から奈良県弓道連盟の体質の改善を勧められました。早速吉本先生に、規約の改正から、年間行事や地連審査の進め方、講習会のあり方等、当時の県連の課題全般にわたって相談に乗っていただきましたが、吉本先生は意見の相違があっても無理に突き進むのではなく、更にその先を読んで新しい解決策を編み出すという、大変深い思考力をお持ちで、当初から日々いろいろと学ばせていただきました。先生は医師であるとともに僧侶の資格をお持ちで、滋賀県野洲の浄土真宗のお寺に通われています。亡くなられる前に左の手で書かれた「三誓偈」(浄土真宗のお経)が後ろに飾ってあります。浄土真宗は他力本願ですが、でも先生は少なくとも弓道の世界では自力本願でした。長い間一緒に稽古をしましたが、たまに「こうなってるよ」ということをおっしゃる程度で、指導らしきことを受けたことは殆どありませんでした。私以外にも傍におられた方は皆そうだったと思います。自分で気がつくと、自分自身と向き合えという



ことだったと思います。

大阪の森川勝先生にご指導をいただこうと思い、吉本先生に声を掛けたところ、岩手を発つときに森川先生を勧められたので、是非一緒に行きたいと言われ、一緒にお世話になることになりました。吉本先生は非常に理解力が良く、指導をいただいたものをきちつと自分のものにしてあつという間に成長され、2年後の61年、全日本の予選を通過され初めて決勝に進出されました。その2年後の63年に最高得点賞と優勝とのダブルの荣誉に輝かれました。そして5年ぐらゐ森川先生にお世話になって、平成元年の大会で最高得点の成績をあげられた後のある時、「もう自分たちでやろう」と言われ、ご指導いただくのを当たり前のように考えていた私は少々違和感を抱いたのですが、その時に気付いたことは、先生の自力という姿勢は、先生のご尊父の吉本伊信さんが始められた内観の教えが身についていらつしゃつたのではないかと意識しました。内観というのは内面の観察、自己を観察し振り返つて、ひたすら自分というものを見つめ直すというものと理解していますが、そういう教えが自然に身につけていたのではないかと思ひました。それは患者さんに対してもその姿勢は変わらなかつたんじゃないかと思ひます。大学の先輩が僻地医療に捧げる姿に触発され、自分もその道を選んだとお聞きしていましたが、診察時間外に来られる患者さんにも丁寧に対応される一方で、予防医療や定期検診とか健康診断とかを積極的に勧めて、「病気になるらないための体作りを

自分で管理していきましよう」と村民に呼び掛けられ、村の医療費助成の支出減額に貢献され、国や村から表彰されていました。現役を引退されてからもがん患者さんの集まりに顔を出されたり、死を目前にした終末期のケアといった活動にも積



極的に携わつておられました。

医師としても弓道家としても、また夫・父親としても優れた人物であつた吉本先生が、あのように急いで旅立たれたことが私には信じられない思ひです。

先生にたつた1つお願いしたことがあります。弓道の理論書を書いて、先生のお考えを本に残してほしいということですが、先生が書くのが嫌だつたら僕が文章化するからと、そこまで言つたのですが最後まで首を縦に振ることはありませんでした。残念だつたなと思ひます。巨星墮つという言葉がありますが、私にとって吉本先生は巨星という認識はあまりなくて、人としてのあり方について何でも話し合える掛け替えのない友人でありました。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

◆ 範士代表 林文夫先生

今思ひ出しても吉本先生（ご逝去は）早すぎます。年代的には離れておりますのでご一緒に稽古できつてことは殆どなかつたのですが、いつも見せていただけておりました。もともと私は四つ躰で引いていました。先生の三つ躰の使い方、会の収まりから離れにいたる躰ほどきをはずつと気にして、見させていただいていました。この見事な力味のない右手の収まりから躰ほどき、この収まりが離れに繋がつていくんだ、と。本当に勉強を勝手にさせていただきました。もう見せていただける機会はなくなつてしまつて非常に残念です。もつともつと早く三つ躰にしたら良かったと思ひました。先生の技はきつと皆さんに引き継いでいただけていたと思ひます。いい所、心に残つた所を思ひ出して皆さんも今後の練習をしていただけたらと思ひます。こういう場に同席させていただきましたのも吉本先生のお導きかなと思ひます。





◆ 矢渡

射手 西中正
 第一介添 西田ゆり
 第二介添 松澤和実



◆ 故人の紹介・動画 吉本清巳様

プロジェクターを使用して、吉本先生の人生をたどった映像を拝見させていただきました。



・一つの 川村光良先生



◆ 来賓射礼 林文夫先生



宮脇保博先生



中野秀也先生

◆ 県連代表射礼

・地連代表射礼 1 (副会長)



藤岡順、松村由喜子、明瀬憲正、阪中計夫、西浦範光

・地連代表射礼 2 (顧問)



新司正人、深田紀美子、竹村邦夫

・地連代表射礼 3 (部長)



千葉健一、長濱正伸、中西康馨

◆ 答礼射

射手 吉本清巳
第一介添 藤岡順
第二介添 綿松昭寛



◆ 一般会員追悼射 (一部抜粋)



◆ご遺族挨拶 吉本清巳様

本日は父、吉本清信の追悼射会を開催していただきましてありがとうございます。林先生はじめ範士の先生方、遠い所をお越しいただきありがとうございます。ご参加していただいた皆様もありがとうございました。

父は弓道に生涯を捧げた人でした。皆さんのご協力もあって大好きな弓道をやってこれたのだと思います。40代50代は全日本弓道選手権が目標で、1年が9月を目標に進んでいました。一生懸命に練習していたのが思い出されます。その後、範士になって全日本に出れなくなって目標を失うかなと思っていましたが、それでもずっと修練を続ける人でした。無人島に行くなら何を持っていくかというテーマに、弓と矢と巻藁を持っていくと言いうような人でした。晩年もただひたすらに修練をしていました。

69才にリンパ腫が再発した時は、もしかしたら亡くなるかもという強い治療をしましたが、その時の治療のおかげで残りの10年間があったと思います。10年経って昨年の3月に脳に再発したときは、会話ができなくなるくらい悪化しま



したが、化学療法をして、普通に喋れるまで回復して家族の元に戻ってきてくれました。8月からは順調に練習を再開して回復していたのですが、思っていた以上に早く10月に再発しました。その後の病気の進行は早く、右半身麻痺となりました。それでも11月は土砂降りの中でも道場に行くと言い、家族はそれをみんなでサポートしました。12月になり、父はコロナで3年会えていなかった岩手の姉に「会いたい」と言いました。姉は会いに来てくれました。私は医師で、末期の患者さんがそういうことを言う時は最期の時が近いということをよく経験します。その時が来たと言いました。本当に姉が来てからはあつという間に悪化しました。もう1回だけ、その1週間後にコロナ禍で会えていなかった孫に会うために、本来やらない約束だった点滴と酸素吸入をして、頑張ってくれて、みんな写真撮って、その後、最期を迎えました。

父はものすごく晴れ男で、布目弓道場で先日行った追悼射会も雨が降りそうだったのに、終わるまでは天気もあってくれました。父がそばにいるような感じがしました。お葬式の時も本当に快晴でした。今日も天気が良くて父が見に来ているんじゃないかと思えます。本当にずっと弓道をやってきた父ですが、岩手県の道場だったり布目の道場だったり、たくさんの方のご協力と弓道が続けられ、それが多くの方が弓を始めるきっかけとなり、そして範士になって、多くのところに引かせてもらいに行ったり、自分の経験を伝えられたのはとても良かったのかな、と思います。父の姿を見ると範士の先生方は本当にすごいなと思います。こういう先生方がいるから弓道が続いていくのだと思います。父の願いとしては、こうやって皆さんが弓を楽しく引いて、楽しく弓を引く人が増えることだと思います。本当に今日は追悼射会を開催していただきありがとうございます。



ご参列くださった先生方と 左から 林先生、望さん、清巳さん、康子さん、佐竹先生、中野先生、川村先生、宮脇先生